第35回日本形成外科学会基礎学術集会

会期 2026年12月17日(木)～18日(金)
会場 那覇文化芸術劇場なはーと、Southwest Grand Hotel
会長 松村 一 先生(東京医科大学 形成外科学分野 主任教授)

ランチョンセミナー4

新規創傷治療促進材料 シルクエラスチン 創傷用シート



日時 2026年12月17日(木)
12:25-13:25

会場 第5会場
Southwest Grand Hotel
「THE GRAND ROOM」

座長 **森本 尚樹** 先生
(京都大学大学院医学研究科 形成外科学 教授)

演者 **川端 慎吾**
(三洋化成工業株式会社)

演者 **松村 一** 先生
(東京医科大学 形成外科学分野 主任教授)

● 本セミナーは整理券制となります。

共催：第35回日本形成外科学会基礎学術集会
科研製薬株式会社／三洋化成工業株式会社

承認番号：30700BZX00089000

ランチョンセミナー4

新規創傷治療促進材料 シルクエラスチン創傷用シート

シルクエラスチン創傷用シートの開発経緯

三洋化成工業株式会社
川端 慎吾

シルクエラスチン創傷用シートは、遺伝子組換え技術により設計された新規バイオマテリアルであり、シルク由来の強靭性とエラスチン由来の柔軟性を併せ持つ“機能性人工タンパク質”として開発を進めてきた。本研究開発は、創傷治癒における湿潤環境の維持と創面への確実な密着性を両立させる材料を創出することを目的に、2010年より基礎検討を開始し、生産系の確立、精製プロセスの最適化、ゲル化挙動の制御など、多段階の課題を順次解決しながら進展してきた。本講演では、シルクエラスチンの分子設計思想、創傷用シートとしての製剤化プロセス、前臨床評価で得られた知見、さらに医療機器として承認されるまでの開発ステップを整理し、どのようにして本材が臨床現場で求められる機能を実現してきたかを概説する。

シルクエラスチン創傷用シートを臨床に活かすには

東京医科大学 形成外科学分野 主任教授
松村 一 先生

遺伝子組換え技術を用いて製造された国内初の医療機器であるシルクエラスチン創傷用シートは、滲出液を吸収して溶解し、体温によりゲル化して創面に密着することで、適切な湿潤環境を保持しながら創傷治癒を促進する新規材料である。熱傷などの急性創傷に加え、既存治療に十分反応しない難治性創傷への応用が期待される。一方、その効果を十分に引き出すためには、創傷の原因、血流、感染・炎症、壊死組織、滲出液量、創床の状態を総合的に評価し、適切な症例と使用時期を選択することが重要である。本講演では、適正使用指針に基づく適応判断、貼付・固定方法、貼付後1～2週間の観察項目、再貼付や他治療への変更時期について整理する。さらに、実際の症例経過を提示し、肉芽形成や上皮化の評価、既存治療との組み合わせ方を検討し、本材を創傷治療の選択肢として適切に位置づけるための実践的なポイントを提示する。